

乙訓平和委員会ニュース

発行年月日 2024年2月5日 No.469 発行・乙訓平和委員会 編集責任者・米重節男
電話・FAX 075-932-3546 MAIL heiwaotokuni@gmail.com

詳しく分かってきた能登半島地震の被災状況は甚大 万博よりも被災地の救援・復旧が最優先だろう！

新しい年がスタートした元日夕刻に、尋常ではないアナウンサーの音が流れました。正月気分を吹き飛ばした能登半島大地震は、甚大な被害をもたらしました。

被災者の救援と、生活復旧、地域の復興に全力をあげるべきとの発言・主張が広がっています。

東日本大震災の被災地では、復旧・復興が進められている最中に、東京オリンピック開催が決定。そのために金・人・物がオリンピック優先で動き、被災地に影響を及ぼし、支障がでたことは多方面から指摘されています。

今回の能登半島地震でも関西万博が問題になっています。主な問題点をみます。

これでも関西万博を開く？ だれが行くのだろう？

万博会場の「夢洲」はゴミ埋め立て地 環境的には良くない

夢洲は、大阪市から出たごみの最終処分場として埋め立てられた土地。PCB、ダイオキシンなどの有毒物なども埋め立てられており、メタンガス噴出なども懸念される。工事関係者の安全衛生と健康の問題も指摘されている。会期中に隣ではIR施設工事が並行しており、粉塵などが会場へも影響するのではないか。環境の悪い中で子どもを行かせるの？

軟弱地盤であり多くの杭を打ち込んでいる。地盤整備費用+終了後の杭の撤去費用や更地に戻す費用は公表されていない。底なし沼で青天井、膨れ上がる経費は誰が負担するの？

来場者は会場にたどり着けるのか

会場の夢洲へは、橋と地下鉄でしか入れない。自家用車禁止で、バス輸送となる。万博協会は、入場者数を会期中2820万人(1日約16万人)と想定している。地下鉄とバスをフル運転してもさばけない人数。バスは運転手不足が問題の時に、本当にできるのか。さらにUSJの1日入場者数が3万4千人と言われているが、万博に4倍もの人が来るだろうか。開催中に地震や台風など来れば、避難もできず取り残される人も出る可能性も大。前売り入場券は46万程度の販売。政府は追加で機運醸成に38億円追加を発表。

将来に多大な負担を残さないためにも、いま中止するのが傷は小さい

当初計画の1.9倍もの費用に膨れ、最終的にいくらかかるのかわからない。そのつけは将来へ。万博の経済効果も曖昧。維新などカジノ推進勢力が万博開催を口実に舞洲のインフラ整備が本当の目的。わずか半年余りで撤去する施設に多額の税金を注ぐべきではない。

今中止すれば、348億円の補償金で済むが、4月13日以降は835億円になる。

いまこそ中止決断して、能登半島地震被災地の復旧に金・人・物を注ぐべき時です

(2面に別記事)

「機械あいきの授業は避けたい」

今年2回目のエッセイです。よろしくお願いします。

小学校6年生時に学校の図書室で読んだ本を今も覚えています。本のタイトルは忘れましたが、中身は南極点に挑んだ人々の物語でした。機械を使った乗り物で南極点を目指したスコット隊。一方、犬ぞりで目指したアムンゼン隊。結局、スコット隊は敗れ、アムンゼン隊が南極点に一番乗りをするというストーリーでした。子供心に、最初は犬って頼りになるのかな、なんて思いながら読み進めていました。結局、犬の方が最後は機械よりも寒さや危機的な状況に強かった、という流れでした。この話は、その後に幾度も思い出されました。

今、授業の形態は、2011年ごろからタブレットが普及し始めて、日本中で一気にこれまでのノート、鉛筆（ペン）、黒板、チョークから機械での授業に変わっていきました。この変わっていく勢いには、すごいものがありました。私もボタンを押せば電子黒板の画面が変わっていく便利さに惹かれて、自前でポインターを買って、喜んで使っていた時期がありました。けれど、あまりにも以前の黒板でやっていた時代に比べて、楽で安上がり

な授業になったような気がして、最近は機械での授業は最小限に抑えています。

以前を知っておられる同僚からは、「・・・さん（私のこと）は、ぐるっと一周して元のやり方に戻られましたね」と言われたりもしました。

一方、プライベートでは、動画サイトで音楽は聞くし、アプリ上では、タッチペンで絵やイラストも描いています。

これが面白いのです。（最近に描いた絵をつけます。紙に描く絵とはまた違った出来映えです）

逆にこのような私用での使い方とは異なり、現場での使用は、電磁波に過敏な生徒も増えてきたり、自らもこの電磁波での健康の状況も考えますと、これから難しい状況です。読者のみなさまの意見を、機会があれば伺いたいです。

(24.01.25)

